

普及活動情勢報告（令和6年11月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

夏の暑さの影響を確認～中芸地区ナス現地検討会～



グラフを確認する生産者

10月25日に中芸地区ナス現地検討会が開催され、生産者20名が参加しました。今年は定植時期の8、9月が暑く、巡回したほ場でのしおれ対策と秋以降の生育を確認しました。

農業改良普及課からは、環境測定装置未導入のほ場でも温湿度の推移を記録・確認できるSwitchBotを紹介し、温度グラフを見ながら換気時間などについて検討できることを説明しました。

参加者からは、環境測定装置未導入のハウスで気軽に温湿度の確認ができるから良さそうとの声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も現地検討会等でハウス内環境の確認とデータを活用した管理方法を紹介し、収量・品質の向上を支援します。

R7園芸年度始まりました～安芸支部ナス部会～



積極的に意見交換をする生産者

10月31日、安芸支部ナス部会が安芸集出荷場管内で、目慣らし会、現地検討会を開催し、生産者47名が参加しました。

農業改良普及課は、令和6園芸年度の単為結果性品種「PCお竜」の調査事例の情報提供を行いました。

参加者からは、「PCお竜」の整枝方法の違いを現地で確認できた、自分の圃場でも実践したいとの声が聞かれました。

また、現地検討会で情報提供の内容を見てもらう機会を設けたことで、整枝方法の理解や栽培への意欲を高めることができました。

農業改良普及課は、今後もJA等関係機関と連携して「PCお竜」の安定生産に向けた技術の普及に向けて支援します。

作業を楽にしませんか？～安芸市カイゼン活動支援～



カイゼン指導を受ける農家

高知県では、県内各地の農家の経営改善に役立てるため、(株)カイゼン・マイスターのアドバイザーを招き、農家の経営内容を見直し、無駄を省いて効率化を目指すカイゼン活動に取り組んでいます。

管内ではナス農家1戸が手を挙げ、農業改良普及課は作業部屋のレイアウトや作業手順書の作成による作業効率の向上についての取組を支援しています。10月31日にはアドバイザーに現地へお越しいただき、現地確認をしました。

アドバイザーからはレイアウトについて助言をいただき、農家からは「新しい視点の意見をいただき助かる」「モノのリスト化からやってみよう」といった意見が出ました。

農業改良普及課では引き続きカイゼン活動を支援するとともに、その他の農家にも情報提供することで、農家の経営の効率化が進むよう支援します。

品質向上に向けて～芸西村土佐鷹なす協議会の現地検討会～



意見交換を行う
生産者と普及員

11月1日、芸西村土佐鷹なす協議会は現地検討会を開催し、協議会員10名が参加しました。この協議会は、「土佐鷹」のブランド化に取り組む生産者組織で5人のメンバーのほ場で視察と食味調査をし、農業改良普及課はその支援を行いました。

生産者からはその場で生のナスを食べることで生産者によってナスの味が全然違うと驚きの声が聞かれました。

また、現地検討会を行うことで整枝方法の理解が深まり、栽培への意欲を高めることができました。

農業改良普及課は、今後もJA等関係機関と連携して高品質なナスの生産安定に向けて取り組んでいきます。

イチジクの生産維持・拡大に向けて～なはりの郷農業部門定例会～



説明を行う普及指導員

11月11日、なはりの郷の農業部門定例会が開催され、なはりの郷、役場など6名が出席しました。

定例会では、事務局から農業部門の事業報告があり、農業改良普及課からは、今年度イチジクの収量が低下したことから、栽培管理の見直しと併せて面積拡大に向けた提案を行いました。

出席者からは、「土づくり、排水対策をしっかり行いたい」「面積を拡大する必要がある」という前向きな声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携しながら、イチジクの生産維持・拡大に向けて支援していきます。

女性農業者の活躍推進を支援～地区農村女性リーダー協議会全員会～



今年度の「つどい」案を
熱心に協議するリーダー
と普及指導員

11月12日、安芸・室戸地区農村女性リーダー協議会は安田町地域ふれあいセンターで全員会を開催し、リーダー10名が参加しました。

農業改良普及課は事前の役員会での活動計画作成及び全員会の運営を支援しました。

会では、地区協議会が主催している「つどい」について、令和7年1月30日に開催することを決定し、当日の日程や内容、役割分担等を協議し、今後のスケジュールを確認しました。

農業改良普及課は、引き続きリーダーによる自主的な活動が計画どおり実行されるよう支援していきます。

データ駆動型農業を開始します ～芸東地区の取組～



タブレットで
データを確認する農家

普及課室戸支所は11月14日から、SAWACHIに環境データが接続されているナス、ピーマンやキュウリの施設園芸農家13名に対してデータのフィードバックを開始しました。

室戸支所は個別巡回で環境データを簡単なグラフに加工し、時期毎の管理のポイントなどを説明しました。

生産者からは、自分のイメージと実際のデータとのギャップや環境制御機器の細かな設定の必要性が理解できたという声がありました。

室戸支所は今後もデータ駆動型農業を実践している生産者を伴走支援し、更なる技術の普及に取り組みます。